

第32回 うつのみやこども賞だより

平成27年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『アカシア書店営業中!』

濱野京子/著(あかね書房)

『イスタンブルで猫さがし』

新藤悦子/著(ポプラ社)



～読んだ本の感想より～

- 児童書コーナーを守るために4人で力を合わせてがんばっている姿がかっこいいと思いました。
- 大地、智也、真衣、琴音の4人が出したアイデアに圧倒された。
- 小学生でも協力して努力すれば、大きなことをできるということが書いてある本だったので、読み終わって、自分もさらにがんばってあきらめずにやっていたと思った。
- 私も読書が大好きなので、大地と同じ気持ちをあじわうことができた本です。この本を読んで書店の意識が変わっていきました。
- 大地たちがしている読書リレーがわたしたちのしているのに、にてるなと思いました。



- 遠い異国の地で、冒険をしていくうちに、たくさんのトルコ人と出会って成長していく。こんな理想的な成長の仕方ですごく生きてゆけるなんてうらやましい。
- 勇人くんがどれだけワン猫のミライを思っているのか伝わってきて、感動しました。
- 愛が雪子ちゃんをかばうようなことをクラスメイトに言った場面が心に残った。もし、自分が愛のような立場だったらどうしよう、と考えた。
- イスタンブルは広いのに必死に探していておもしろかった。

『あの花火は消えない』 森島いずみ/著(偕成社)

- 透子とばんちゃんには、不思議な絆ができていくのを感じました。身近な話に思えたので、とても読みやすかったです。
- トコちゃんはその周りにいる人達に支えられて、今のトコちゃんがいるんだと感じた一さつでした。
- とう子が、「空にいったら幸せくらす。だからもう、呼びもどさんでもええのや。」と自分に言い聞かせるように言う場面が感動した。
- おかあさんの言葉がいいなと思いました。
- 透子(トコちゃん)が、前より感情を上手くコントロールできるようになり、美術大学へ進めるようになってよかったと思った。

『自転車少年』 横山充男/著(くもん出版)

- 晴美のお父さんが生きていたらどんなことがあったかなと考えながら読みました。
- 3人が声をかけ合って、おたがいに良いところを生かしているのが、3人のきずなを感じた。
- 三人の姿を見てとてもかっこいいと思いました。
- 僕もこんな素敵な心を持てるようになりたい。